S21-4　現代の新薬発見におけるナレッジ・マネジメントの課題

○Josep PROUS[1]
[1]Prous Institute for Biomedical Research

近年、様々な実験手法を取り入れることにより、医学生物学研究が進展してきた。その結果、疾病に関与するゲノムと共に新しい治療標的が明らかにされて来た。

その意味でこれらの新しい手法は有用である。しかし一方で、これらの手法からは莫大な量のデータが得られるため、より活性が高くかつより安全な医薬を発見するためには、それらのデータを活用しやすい形に組織化することが必須である。

幸いにも、情報処理技術が進歩したことにより、かつては手をつけることさえできなかった複雑なデータの持つ意味合いを解析することが今や可能になって来た。

本講演では、医薬開発において実験と情報処理の２つの技術が協調して進歩することの重要性について述べる。具体的には、治療上の重要なエンドポイントである治療活性および毒性プロフィールと低分子特徴を関係付ける予測モデルの開発に焦点を当てて述べる。